

# 大和地区日中友好協会だより

第4号 (2019年3月5日発行)



吉慶有余

(編集担当) 石井 功 ・ 高林 正

## 「春節の集い」は大盛況、一方で課題も

会長 石井 功

恒例の「春節の集い」は、2月24日(土)11時から14時まで、大和市勤労福祉会館3階のホールで開催されました。参加者はなんと、予想を遥かに超えて90名余り。そのため、軽食に大幅な不足が生じるという事態が発生しました。

会員外の有志を含めたスタッフは、朝9時に調理室に集合。全体打ち合わせが済むと、調理担当者15名は早速調理を開始、会場の準備担当者はホールに移動して机と椅子をレイアウト表に従って配置し、ステージその他に飾りつけをしました。

10時40分受付開始。11時「春節の集い」開会。会長挨拶、来賓の祝辞のあと、前大和市長・本会顧問の土屋侯保先生による講演「日本・中国関係史(私の個人的見解と解釈)」が始まりました。なんと、講演開始の時点で、席はほとんど埋まっていました。講演を目当てに参加された方がたくさんおられたからです。

土屋先生の講演は、幕末から現代に到る日中関係がテーマで、主要な人物をクローズアップさせ、その人物の果たした役割について、先生の見解や評価を加えるというものでした。幕末に『蘭学階梯』の序文を書いた萩野信敏、近代にはいって孫文の革命を支援した宮崎滔天、天安門事件(1989年)の2年前に胡耀邦総書記が失脚した時の失望など、土屋先生の視座が鮮明になった講演でした。

10分間の休憩のあとは軽食。喜多郎の「シルクロード」が流れ、参加者は中央に用意した料理を各自皿に盛り、会食が始まりました。ただ、調理スタッフが精いっぱい働き通したにもかかわらず、料理はあつと言う間になくなってしまいました。たいへん厳しい体験です。お腹を空かして帰られた皆様には、心からお詫び申し上げます。

余興は、海老名日中会長平岡幸雄氏による蛇皮線の演奏、本会会員の二見旭氏他2名による安来節、本会常任理事渋井金澤氏による漢字をめぐるクイズ、大和ウクレレ倶楽部の皆さんによる歌と演奏などでした。ウクレレ倶楽部の方とは「生涯学習センターまつり」の時に知り合い、急きょお願いして出演していただきました。メンバーの皆さん、今後共どうぞよろしくお願ひいたします。

ホールの机や椅子を片付ける作業を、子どもさんを遊ばせながら最後まで一緒に手伝ってくださった、中国出身の若いお母さんが3名いらっしゃいました。さすがに、たいへん疲れた様子。お礼を言い、本会への入会をお誘いしました。そのうちのお一人が、「子どもに、私の母国語である中国語を学ばせたいのです。教室を作っていただけませんか」…大和日中に宿題が一つできました。